麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属　獣医学科　　職階　准教授

氏名　西田英高

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1．教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
2．教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
3．教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
4．教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・毎年
5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6．学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7．指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
8．今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年

1．教育の責任　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

小動物臨床における教育、研究活動を行っている。主に、 外科学、神経病学を担当し、犬・猫における獣医外科学、神経病学の病態、疫学、診断、及び治療に関して、 授業及び実習を行っている。卒業論文は、 小動物臨床研究室の学生を指導していく。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医外科学	獣医学科	必修	4	140
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅰ	獣医学科	必修	4	140
小動物獣医総合臨床Ⅰ	獣医学科	必修	5	140
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	140
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	140
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	5~10
卒業論文	獣医学科	必修	6	3~5

2．教育の理念　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

これからの国際化社会、AI時代の中で、自ら問題や課題を提案し、解決できる獣医師（研究者） として活躍できる教員となるとともに、 次世代の人材を育成したいと考えている。臨床や研究の現場では、答えが簡単に見つからなかったり、答えのない問題や課題に多く遭遇する。そのような状況でも、自ら問題や課題を見つけ、解決できるような人材を育成したいと考えている。

3．教育の方法　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

＜実際の症例を基にして、臨床現場を意識した学びを行う＞
授業や実習などで学習したことが実際の臨床につながるように、知識を丸暗記をするのではなく、考える力を育成する。
＜基礎的知識がなぜ必要かについて伝える＞
獣医学における解剖学、生理学、薬理学などの基礎知識は、病態、 診断、治療を理解する上で、非常に重要である。これらの知識を土台に、臨床獣医学を実践できるように心がける。
＜自ら体験できる機会を作る＞
学んだ知識を活かせる機会をできるだけ与えるようにする。また、 グループディスカッションなどを通して、 お互いに伝えたり教え合える機会を設ける。
＜自ら問題を提起し、解決できる能力を身につける＞
診療、ゼミ、卒業研究などの活動を通して、 教科書や論文などを自ら調べることを通して、考える力を身につける。週に1回はゼミを行い、活発に議論できる機会を設けて、自分の意見や考えを表現できるようにする。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

ゼミや卒業研究を通して、 双方向に学べる機会を週に1回程度設ける。また、自ら実践や体験 する機会を与えて、学生同士で学び、互いに成長できるように仕向ける。

（2）ICTの教育活用

有

情報の共有には、Googleドライブなどを活用し、一元にデータを共有できるようにしている。

4．教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

神経病については学生が苦手意識を持つことが多いため、できる限り症例などの動画を用いて視覚的に理解しやく、興味を持ってもらえるように工夫した。

（2）学生の理解度の把握

B

授業で重要なことを試験問題に反映させてその正答率は高かったが、深く学べているかの確認は不十分であると考えられた。

（3）学生の自学自習を促す工夫

B

理解度を把握する方法として小テストを用いたが、 自宅での学習などが不十分であると考えられた。

（4）学生とのコミュニケーション

B

今年度は昨年度に比べて質問が少ない印象があったが、質問があった場合には個別に対応した。

（5）双方向授業への工夫

A

ゼミや卒業研究を通して、 双方向に学べる機会を週に1回程度設けた。また、自ら実践や体験する機会を与えて、学生同士で学び、 互いに成長できる機会を積極的に設けたが、一部の学生は負担となっている印象を受けた。

（6）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

国家試験の過去5年分の獣医学及び神経病学について確認し 、授業や小テストなどに反映した。

5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

コメントを確認したが、アンケートが非常に少なく、有益な情報が得られなかった。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

特になし

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

特になし

6．学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

大学で学習してきたことを応用できるように、 実践できる機会を少しでも設けるように心がけた。また、実践した後に、どのようにすればさらに良い結果が得られるかについて、話し合 ったり、互いに教え合えるような環境を作っていきたいと考えている。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特になし

7．指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

診療のために参加できないこともあるが、その場合には録画された動画を全て視聴している。

8．今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

理解度に差（幅）がある学生に対して、 興味を持ってもらえる授業や実習を心がける。また、授業で使用する教材をさらに充実させる。興味を持って学習意欲の高い学生には、自らで問題提起し、解決できる能力を身 につけられるように機会を設けるように心がける。これからの国際化社会、AI時代の中で、自ら考え、問題を提案、解決できる獣医師や研究者を輩出できるようにする。

9．ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

・シラバス
・ＦＤ研修
・教材
・試験問題
・論文